

活動状況等報告④ 環境学習



斐伊川水系 水鳥プロジェクト

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

1. 環境学習ワーキング報告

(1) ワーキング開催概要

2024年2月26日(月)に、環境学習の推進について意見交換を行った。

日 時	2024年2月26日（月）14:00～16:00		
場 所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室（オンライン併用）		
参加 メンバー	NP0法人 国際交流フラワー21 理事長 しまね花の郷 理事長	青木 広幸	
	出雲市 農林水産部 農業振興課 課長補佐	大國 和久	
	（公財）中海水鳥国際交流基金財団 常務理事兼事務局長 米子水鳥公園ネイチャーセンター 館長	神谷 要	
	NP0法人 いずも朱鷺21 理事長	原田 孟	
	奥出雲町の自然を活かす会	藤原 政明	
	（公財）しまね自然と環境財団 島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課課長代理	星野 由美子	
	（公財）ホシザキグリーン財団 ホシザキ野生生物研究所 所長	森 茂晃	
	キコニアまなびネット 代表 （雲南市立西小学校 元校長）	和田 邦子	
	協議会参加自治体の関係部署		
その他	国土交通省 出雲河川事務所		
	（公財）日本生態系協会		
主な議題	①環境学習ワーキングと全体構想の短期目標について ②ウェブサイトを通じた環境学習プログラムの発信について ③その他、環境学習の展開を支援するツールや活動について		



(2) 主な議事内容

◆ウェブサイトを通じた環境学習プログラムの発信について

環境学習やふるさと学習に関心のある学校の先生を主対象とし、2023年11月の宍道湖グリーンパークでの取材結果をもとに、環境学習プログラムの活用事例を紹介するサイトを作成し、情報発信を行った。

概要

活用事例の作成等にあたっては、以下の点に留意した。

「授業を受けた経緯」を紹介

- 当施設をおとずれプログラムを活用するに至った経緯を、学校教員への聞き取りのもと『どのような時に活用できるか、実際に活用しているのか』を紹介した。

「教材の紹介」をまじえた、授業の様子を紹介

- (公財)ホシザキ野生生物財団の了解を得て、授業に使用したスライド画像の一部も使いながら紹介し、学校の授業への導入のしやすさを視覚的に伝えることを心掛けた。
- 本プログラムは宍道湖や野生生物に関するクイズをまじえ、子どもたちの反応(回答)をもらいながら進めていたので、その反応も紹介した。

その他

- スライドの他、児童が手に取ることでできるツールも紹介した。
- 室内講義のほか、バードウォッチング等の活動もできることをあわせて紹介し、プログラムや施設の使い方についてイメージをつかみやすくした。



◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・ 特になし

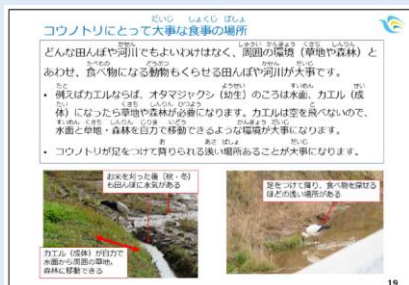
◆その他、環境学習の展開を支援するツールや活動について

1. 「教材」の検討・作成

大型水鳥類に象徴される斐伊川水系全体の自然環境の特徴や魅力、および、斐伊川水系生態系ネットワークの取組について伝える「教材」を検討・作成した。

概要

- 大型水鳥類をシンボルとした斐伊川流域全体の自然の魅力や、その魅力を守り活かす取組について学べる「共通の教材」を検討した。
- 小学生（環境について学び始める中学年以上）を対象とし、やさしい言葉使い・ふりがなにも留意した。



◇ワーキングメンバーからの意見等

- 「水系」「流域」を視覚的に説明する資料等、小学生だけでなく教える側、教員も使える、面白いと感じる情報が入っている。
- 大型水鳥に注目する理由については、もっと説明が必要。
- 小学生向けとするには、難解な単語もあり内容が難しい。動画やパワーポイントのアニメーション機能を使ってもよい。

2. その他、プログラムの活用を促す手法等

プログラム提供者より、実際にプログラムで活用しているツールを、使い方や学びのねらいとあわせ、紹介いただいた。パネルなど「見せる」タイプのツールのほか、手にとって重さやつくり、手触りを「実感してもらう」タイプのツールの紹介があった。

この他、水鳥プロジェクト事務局より今年度作成・使用したツール等の紹介を行ったほか、斐伊川水系の自然の魅力をわかりやすく伝えるためのアイデアや効果的なツールについて、意見交換を行った。



三瓶自然館サヒメル星野氏より、コウノトリのぬいぐるみ（実物とほぼ同じ重さ）の紹介



キコニアまなびネット和田氏より「コウノトリまなびパネル」の紹介



米子水鳥公園神谷氏より、カモのデコイの紹介（オンライン参加）



宍道湖グリーンパーク森氏より、マガンのぬいぐるみ（実際のとほぼ同じ重さ、大きさ）の紹介

今後の方向性

「教材」の修正・公開など

ワーキングでの意見等をもとに、わかりやすさ・使いやすさに配慮して修正し、可能なものから随時ウェブサイト等で公開し、活用をうながす。また、斐伊川水系の自然の魅力を伝えるツールの開発についても、引き続き検討を進める。

環境学習プログラムの活用拡大を目的とした、学校や地域への周知活動の継続
今後とも、プログラム提供団体との連携のもと、プログラムの活用事例の拡充を進める。また、環境学習プログラム集やウェブサイトを活用し、圏域の学校や民間団体への周知を図る。

(3)環境学習に関連した活動

◇松江市立乃木小学校への取材他

11月1日(水)、松江市立乃木小学校5年生(4クラス、140名)が宍道湖グリーンパーク・および宍道湖自然館ゴビウスを訪れ、「ラムサール条約」を主軸とした、宍道湖の自然と野生の生き物について学ぶ課外授業を行った。

当日は水鳥プロジェクトも同席し、宍道湖グリーンパークの講師による授業の様子を取材した。

また、室内講義の時間を一部いただき、斐伊川水系水鳥プロジェクトからも、斐伊川水系の自然の魅力や、その自然が抱える問題点について紹介した。

自然を守るために子供たちにできることがないか、意見交換を行った。



室内講義とあわせて、グリーンパーク周辺の野鳥を観察した。宍道湖から飛来するコハクチョウの集団も観察することができた。



取材結果をもとにプログラム活用事例をレポートとして作成し、ウェブサイトに掲載した。

◇環境学習プログラムの活用に向けた周知

圏域市町の教育委員会を通じて、2024年4月に圏域の小学校に環境学習プログラム集を配布した(継続)。

また、新たな試みとして、公民館やコミュニティセンターでの活用を呼びかけるため、関係者の会議に参加し、斐伊川水系水鳥プロジェクトの紹介とあわせ、環境学習プログラムを紹介した。

日 時	場 所
2024年1月12日(金)	米子市(公民館連絡会議)
2024年6月5日(水)	出雲市(コミュニティセンター長会)



米子市公民館連絡会議での講演の様子。水鳥プロジェクト事務局からの説明の他、米子水鳥公園神谷氏より、同公園の活用事例や他施設・団体についても紹介いただいた。

◇その他

環境学習プログラム集の配布や利用呼びかけにあたり、事前に教育委員会(松江市、安来市、飯南町)、公民館・コミュニティセンターおよび児童クラブの担当部署(米子市、出雲市)等への聞き取り、情報交換を行った。

この他、島根県・中海・宍道湖・大山圏域市長会主催の子どもを対象としたイベントの開催にあたり、資料提供というかたちで支援を行った。

